

目黒区のごみ・資源の現状と課題について

1 ごみ・資源の現状とその課題

(1) ごみ量（資料1）

目黒区のごみ量は平成22年度からほぼ横ばいだが、平成23年度に前年比+0.5%、平成25年度は+0.4%と増加に転じている年もある。平成24年度比では、可燃ごみ+0.4%、不燃ごみ-2.2%、粗大ごみ+5.0%と、粗大ごみの増加が著しい。

＜ごみ量の推移と前年比＞

年度		20	21	22	23	24	25
可燃ごみ	ごみ量(t)	47,974	50,217	49,577	49,769	49,631	49,809
	伸び率	3.8%	4.7%	-1.3%	0.4%	-0.3%	0.4%
不燃ごみ	ごみ量(t)	7,389	2,849	2,816	2,747	2,619	2,563
	伸び率	-45.1%	-61.4%	-1.2%	-2.5%	-4.7%	-2.2%
粗大ごみ	ごみ量(t)	1,998	2,011	2,087	2,263	2,438	2,561
	伸び率	1.0%	0.6%	3.8%	8.4%	7.7%	5.0%
合計	ごみ量(t)	57,361	55,077	54,480	54,778	54,688	54,933
	伸び率	-6.9%	-4.0%	-1.1%	0.5%	-0.2%	0.4%

※ 各欄の下段部分は対前年度の増減比率（%）。なお、回収量等は単位未満を四捨五入して整数で表示しているため、増減比率（%）が表記どおりの計算結果と一致しないこともある。

(2) リサイクル率の推移

平成20年10月に区内全域で開始した廃プラスチックの資源化とサーマルリサイクルによりリサイクル率の著しい向上が見られたが、平成22年度以降大きな変化はない。

年度	19	20	21	22	23	24	25
リサイクル率	23.8%	26.4%	28.4%	27.9%	27.7%	27.7%	未確定

(3) ごみ量・リサイクル率の課題

ア ごみ量の課題

ごみの減量が進まず平成22年度から停滞していることが課題である。内訳を見ると、可燃・不燃ごみはほぼ横ばいか逡減傾向だが、粗大ごみは毎年増加が著しい。この傾向は今後も継続する恐れがあり、何らかの対策が必要である。

イ リサイクル率の課題

23区でトップクラスを保っているものの、平成22年度からリサイクル率が停滞していることが課題である。平成20年10月の廃プラスチックの資源化とサーマルリサイクルの開始直後の平成21年度には28.4%だったが、その後27%台で停滞しており、新たなリサイクル推進施策が必要である。

2 一般廃棄物処理基本計画の取組み状況

現行の一般廃棄物処理基本計画では、以下のとおり計画目標を掲げ、目標の達成に向けた重点施策によって一定の成果を挙げている。

(1) 計画目標

<計画目標>

目標項目	指標	算出方法	平成 28 年度目標
ごみ減量	ごみ量	ごみ量(=区収集ごみ量+持込量)	ごみ量を平成 17 年度比で 35%削減する。
再生利用 (リサイクル)	リサイクル率	資源化量÷(ごみ量+資源化量) (資源化量には集団回収分を含む)	リサイクル率を 40%に引き上げる。

<進捗状況及び達成度>

	基準年度(平成 17 年度)	平成 24 年度実績
ごみ量	64,866t	54,688t(15.7%削減)
リサイクル率	23.0%	27.7%

※ 持込ごみの算定方法が平成 20 年度から大幅に変更されたため、ごみ量およびリサイクル率は持込ごみを含まない数値で算出した。

(2) 重点施策の進捗状況

ア 「めぐろ買い物ルールづくり」の推進

数値目標	平成 23 年度実績
平成 23 年度までに(認知度を)50%まで引き上げる	43.7%

※ 環境に関するアンケート調査による(環境保全課調べ)

イ 廃プラスチックのリサイクル促進

実施内容
廃プラスチックの分別変更は、平成 20 年 10 月に区内全域で実施した。

ウ 家庭ごみの有料化検討

実施内容
他自治体の進捗状況の調査研究等を行った。

エ さまざまな環境学習の機会創出

数値目標	実績
平成 23 年度までに 30%に引き上げる	平成 23 年度 34.4%

※ 平成 23 年 10 月 1 日現在人口(外国人登録者を含む) 262,642 人(30% 約 78,792 人)
実績は 19~21 年度末までの累計とする。 90,250 人(34.36%)

オ 古紙回収の効率化

実施内容
平成 24 年 3 月に、古紙の集団回収一元化事業を完全実施した。

(3) 一般廃棄物処理基本計画の課題

ア 計画目標

・現行計画のごみ減量・リサイクル率の目標値が達成されていない状況だが、現行目標値を維持するか、新しい目標値を設定すべきか。

イ 重点施策

- ・目標を達成した施策の発展性について検討が必要である。
- ・目標を達成できなかった施策は、問題点の整理を行い、目標達成に向けた新たな施策の検討が必要である。

3 普及啓発活動について

目黒区は緊急財政対策の一環として平成24～26年度普及啓発関連経費を縮小している。

(1) 24・25年度と23年度の普及啓発について

	24・25年度	23年度
区報への掲載	<p><大特集（1面）> 5～6月 資源とごみの分別徹底 10月 3R月間 26年2月5日号 使用済み小型家電拠点回収開始のお知らせ</p> <p><小特集> 7月 第7期分別収集計画 （改定時期に合わせた掲載） 11月 ごみ・資源の回収実績と処理に係る経費</p> <p><英文広報> 6月 資源とごみの分け方・出し方 12月 年末の大掃除に向けての粗大ごみ・カセットボンベの出し方</p>	<p><大特集（1面）> 5～6月 資源とごみの分別徹底 10月 簡易包装・スマートショッピング</p> <p><小特集> 11月 ごみ・資源の回収実績と処理に係る経費</p> <p><英文広報> 6月 資源とごみの分け方・出し方 12月 年末の大掃除に向けての粗大ごみ・カセットボンベの出し方</p>
総合庁舎西口 パネル展示・ 懸垂幕の掲示	<p><西口パネル展> 3～4月 引越しに伴うごみについて 5～6月 環境月間 10月 3R推進月間（エコライフ目黒推進協会作品展示・区内小学生による3Rポスター・標語コンテスト） 12月 年末年始のごみについて</p> <p><懸垂幕掲出> ・目黒区総合庁舎・清掃事業所 （6月、10月）</p>	<p><西口パネル展> 4月 引越しに伴うごみについて 5～6月 環境月間 10月 3R推進月間（エコライフ目黒推進協会マイバックコンテスト作品展示） 12月 年末年始のごみ</p> <p><懸垂幕掲出> ・目黒区総合庁舎・清掃事業所 ・区内大手スーパー2箇所（掲出有料） （6月、10月）</p>

冊子・リーフレットの作成・配布	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども用(低学年用)パンフレット・子ども用(4年生用)パンフレット ・「目黒区 資源とごみの分け方出し方」転入者用パンフレット(充実版)の作成 ・紙芝居・紙芝居ぬりえ ・買い物ルールブック増刷 ・事業系パンフレット(充実版) ・使用済み小型家電拠点回収開始チラシ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「目黒区 資源とごみの分け方出し方」・外国語版リーフレット ・適正排出(集団回収一元化)パンフレットの印刷・配布委託 ・単身集合住宅居住者用パンフレットの印刷・配布委託
環境学習	<p>清掃事務所による出前講座を実施</p> <p>25年度 31回 24年度 26回</p>	<p>清掃事務所による出前講座を実施</p> <p>23年度 30回</p>
啓発グッズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイポイ袋(雑紙回収袋) ・環境学習用名入れ文房具 ・未就学児向け「ペーパークラフト 小型プレス車・ぬりえ封筒付」の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・マグネット(ごみ減量6キャラクター) ・環境学習用名入れ文房具 ・ゴミラスヘルメット作製 ・ごみ減量キャラクターぬり絵
瓦版(町会回覧チラシ)	<p>7・11・2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルの出し方 ・生ごみの水切り ・危険物の出し方と水銀含むごみの処分方法 ・雑紙の回収について 	なし
イベントでの啓発活動	<p>【25年度】エコまつりめぐろ2013 小型家電回収開始周知 小型家電イベント回収(99名) アンケート回収139枚</p> <p>【24年度】エコまつりめぐろ2012 危険物の適正排出・雑紙回収についてクイズ(回収94枚)</p>	<p>【23年度】ふえすた環境 in 目黒2011で分別クイズを実施(302名)。</p>
その他	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸土の回収 ・めぐろ買い物ルール川柳コンテストの実施 ・ガラクタ音楽会の実施 ・リサイクル施設バス見学会 ・東急バス車内放送

(2) 普及啓発の課題

以前から実施していた普及啓発事業の一部は、緊急財政対策により現在縮小休止中だが、ごみや資源のチラシ(瓦版)を新たに発行したり啓発グッズを充実するなどの工夫によって補ってきた。

平成27年度以降については、引き続き区財政が厳しい状況であることを踏まえ、最小の経費で最

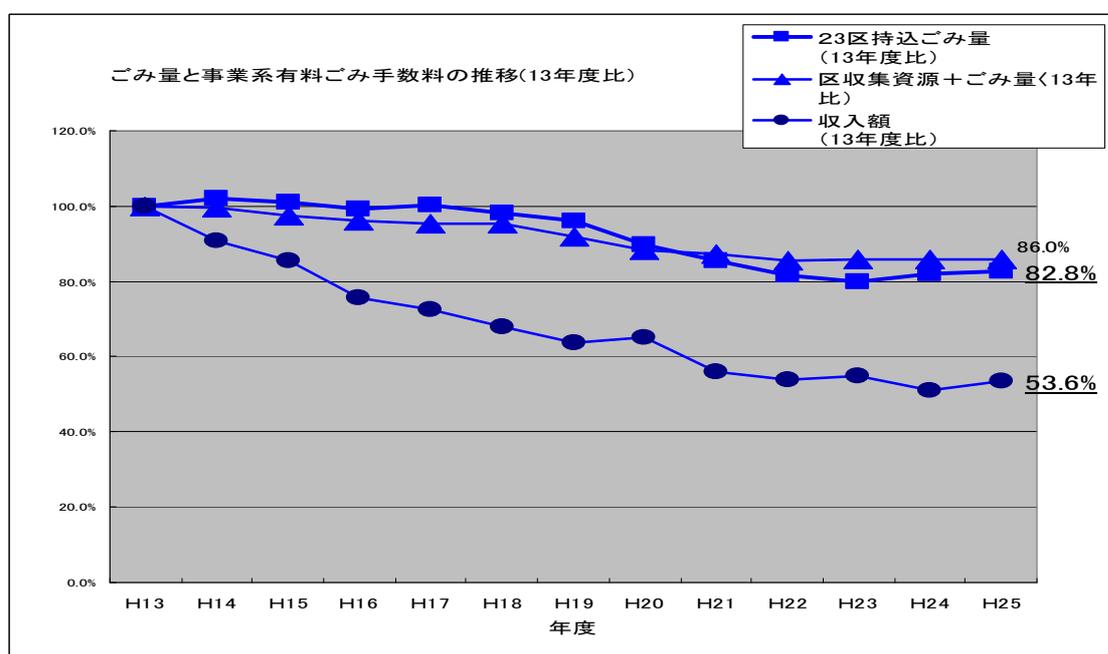
大の効果を得るような啓発事業を検討していく必要がある。

4 拠点回収

回収品目および回収場所についての検討が必要である。

5 事業系ごみについて

平成 12 年に都から清掃事業移管されて以来、事業系有料ごみ処理券の手数料収入額が年々少なくなっている。平成 13 年度と平成 25 年度を比較すると、23 区持ち込みごみ量の減少（17.2%）に比べて、収入額では 46.4%も減少しており、事業系の資源やごみが家庭系に混入している懸念がある。今後も事業者が排出する資源とごみは有料であることを様々な機会を捉えて啓発するとともに、課題を整理し今後の対策を検討する必要がある。



※ 区の収集に出している事業系ごみ量は把握できないため、参考に 23 区全体の持込みごみ量及び目黒区の資源とごみの収集量を表示した。

※ 20 年度収入額が増加したのは、手数料改定によるものであり、実質は減である。

6 目黒区の人口・世帯数の推移と予測（資料 2）

区の全年齢人口及び世帯数は、平成 28 年度（国勢調査）・29 年度（住民基本台帳）をピークに減少する。年齢階層別に見ると、年少人口は平成 32 年（国勢調査）・平成 31 年（住民基本台帳）をピークに減少するものの、構成比率はほぼ横ばいである。高齢者人口は増加傾向が続き、平成 47 年には 26.3%（国勢調査）・25.5%（住民基本台帳）となる。

<課題>

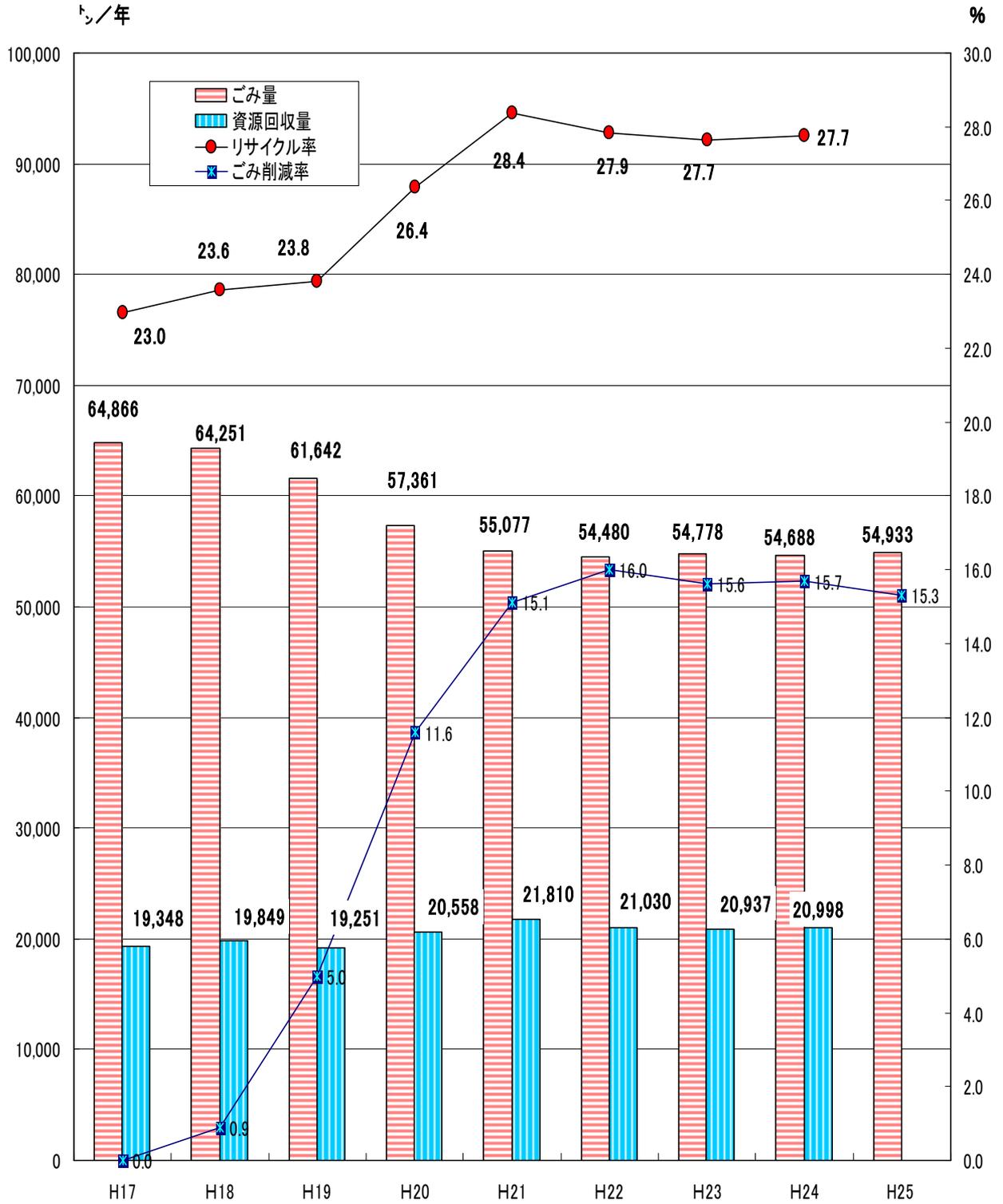
現在、集積所にゴミ出しができない一人暮らしの高齢者には個別に訪問して収集するほか、区内に親族のいない 65 歳以上のみ世帯の粗大ごみ運び出しを実施している。今後本格的な高齢化社会に向けた課題を整理し、施策の方向性を検討していく必要がある。

以 上

資料 1

平成 2 5 年度ごみ量 (平成 25 年度資源回収量は資料作成時未確定)

目黒区リサイクル率とごみ削減率の推移



目黒区ごみ量・資源回収量の推移

単位: t

品目/形態		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
ごみ	区収集 ごみ	可燃ごみ	47,801	47,323	46,206	47,974	50,217	49,577	49,769	49,631	49,809
		不燃ごみ	—	-1.0%	-2.4%	3.8%	4.7%	-1.3%	0.4%	-0.3%	0.4%
		粗大ごみ	15,006	15,004	13,457	7,389	2,849	2,816	2,747	2,619	2,563
		—	0.0%	-10.3%	-45.1%	-61.4%	-1.2%	-2.5%	-4.7%	-2.2%	
	合計	2,059	1,924	1,979	1,998	2,011	2,087	2,263	2,438	2,561	
—	-6.6%	2.9%	1.0%	0.6%	3.8%	8.4%	7.7%	5.0%			
ごみ削減率(%)		0.0	0.9	5.0	11.6	15.1	16.0	15.6	15.7	15.3	
資源	古紙 (新聞・雑誌 類・段ボール)	集団回収	10,236	10,629	10,625	10,252	10,421	11,112	12,196	13,812	
		分別回収	5,976	6,073	5,018	4,885	4,552	3,186	1,890	414	
		小計	16,212	16,701	15,644	15,138	14,973	14,298	14,086	14,226	
	—	3.0%	-6.3%	-3.2%	-1.1%	-4.5%	-1.5%	1.0%			
	ペットボトル	分別回収	9	81	167	476	775	815	958	945	
		拠点回収	211	193	180	136	100	95	87	80	
		小計	221	275	347	612	875	910	1,046	1,025	
	—	24.5%	26.4%	76.2%	43.0%	4.0%	14.9%	-2.0%			
	プラスチック製 容器包装	分別回収	—	—	223	1,391	2,152	1,953	1,898	1,806	
		—	—	—	522.3%	54.8%	-9.2%	-2.8%	-4.8%		
	びん	分別回収	2,300	2,232	2,383	2,599	2,866	2,924	2,984	3,034	
		—	-2.9%	6.8%	9.1%	10.3%	2.0%	2.1%	1.7%		
	缶 (アルミ缶/ス チール缶)	集団回収	2	3	2	1	—	—	—	—	
		分別回収	551	576	615	769	896	893	886	873	
		小計	554	579	617	770	896	893	886	873	
	—	4.5%	6.7%	24.8%	16.3%	-0.3%	-0.8%	-1.5%			
	古布類	集団回収	16	17	14	23	22	23	9	9	
		拠点回収	19	19	—	—	—	—	—	—	
		小計	35	36	14	23	22	23	9	9	
	—	2.4%	-61.9%	65.9%	-3.5%	4.5%	-60.9%	0.0%			
	紙パック	集団回収	4	4	3	2	2	2	2	1	
		拠点回収	11	10	9	10	9	9	7	7	
		小計	15	14	12	12	11	11	9	8	
—	-2.9%	-16.2%	0.5%	-7.4%	0.0%	-18.2%	-11.1%				
乾電池	拠点回収	12	12	11	15	15	18	19	17		
	—	0.4%	-6.9%	35.6%	0.0%	21.3%	5.6%	-10.5%			
合計		19,348	19,849	19,251	20,558	21,810	21,030	20,937	20,998		
—	2.6%	-3.0%	6.8%	6.1%	-3.6%	-0.4%	0.3%				
ごみ・資源の総合計		84,214	84,100	80,893	77,919	76,887	75,510	75,715	75,686		
—	-0.1%	-3.8%	-3.7%	-1.3%	-1.8%	0.3%	0.0%				
リサイクル率(%)		23.0	23.6	23.8	26.4	28.4	27.9	27.7	27.7		
人口(人)		256,138	259,403	260,224	261,156	260,862	262,013	262,674	264,113	267,667	
区民1人当りのごみ量 (g/人・日)		694	679	647	602	578	570	571	567	562	
区民1人当りの資源量 (g/人・日)		207	210	202	216	229	220	218	218		
区民1人当りのごみ・資源量(g/人・日)		901	888	849	817	808	790	790	785		

※ 各欄の下端部分は対前年度の増減比率(%)。なお、回収量等は単位未満を四捨五入して整数で表示しているため、増減比率(%)が表記どおりの計算結果と一致しないこともある。

※ 人口は、23年まで住民基本台帳人口は10月1日、外国人登録は12月31日現在の数字で記載している。24年8月以降は外国人の方もあわせて統計をとるようになったため、10月1日現在で統一している。

※ 許可業者によって直接搬入される事業系一般廃棄物などの持込ごみは、この集計から除外している。

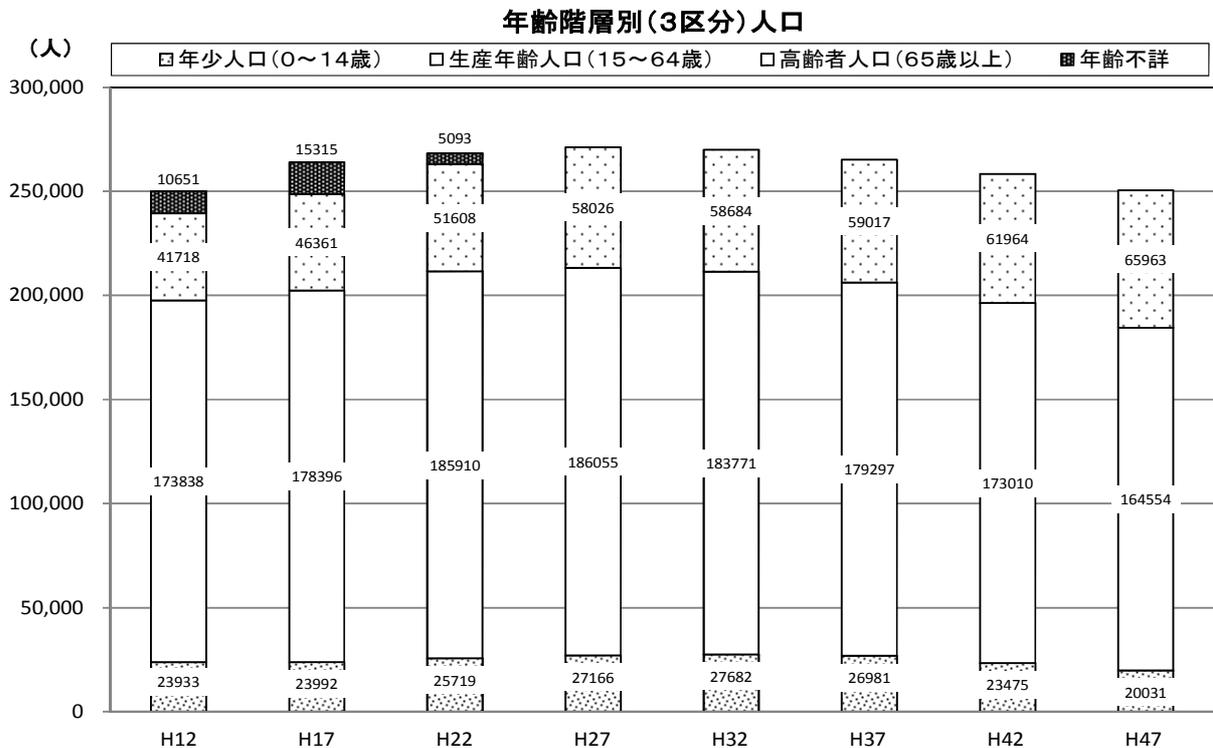
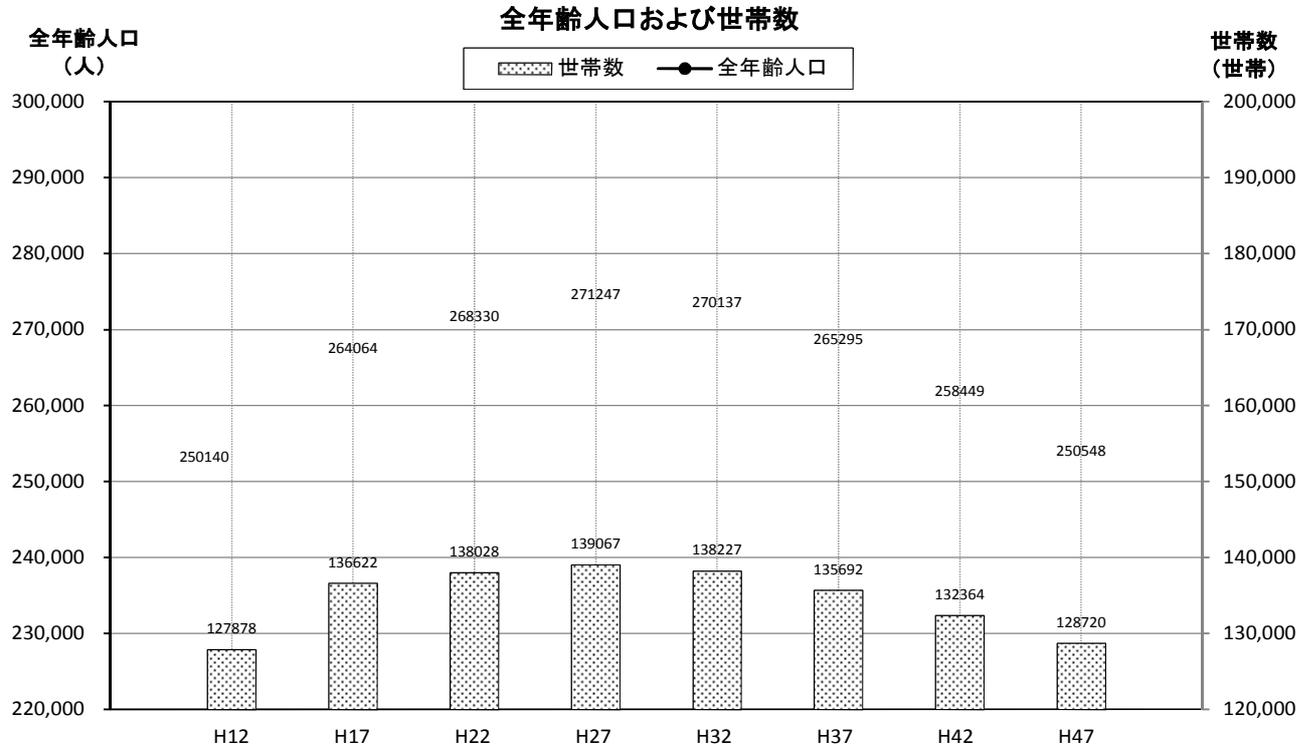
※ リサイクル率 = $\frac{\text{資源(集団回収量+分別回収量+拠点回収量)}}{\text{ごみ(区収集ごみ量)+資源(集団回収量+分別回収量+拠点回収量)}} \times 100$

※ 平成18年7月からびん・缶・ペットボトルの3品目、19年10月からびん・缶・ペットボトル・プラスチック製容器包装の4品目の分別回収モデル事業を開始し、20年10月からは区内全域で本格実施した。

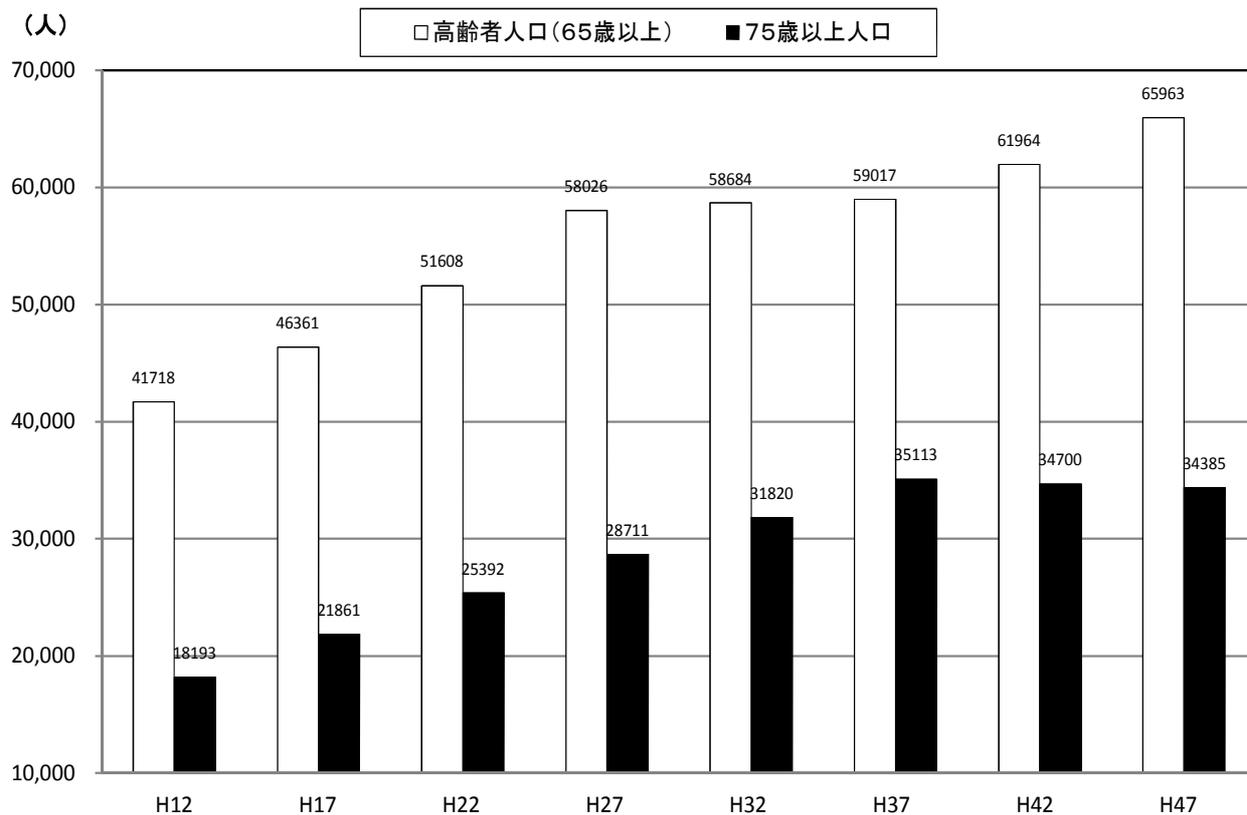
資料 2

目黒区人口・世帯数の推移と予測

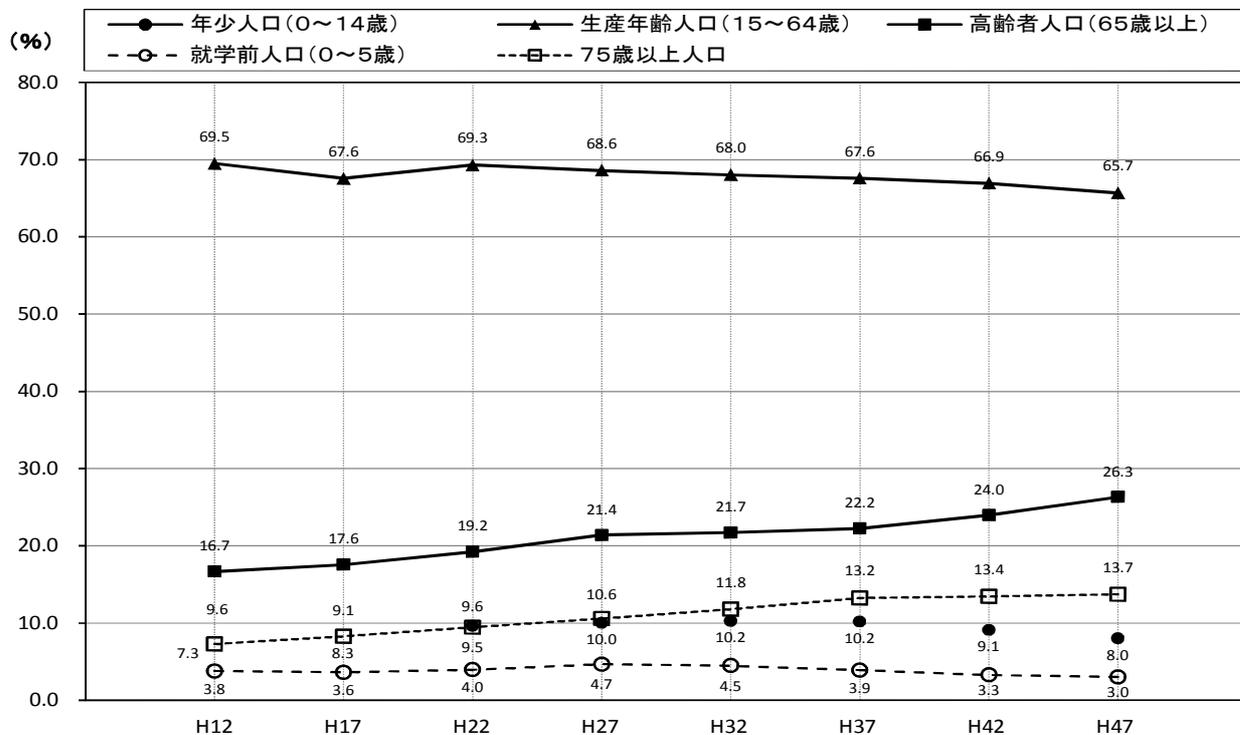
1. 国勢調査ベースの年齢階層区分別人口推移（全町丁）



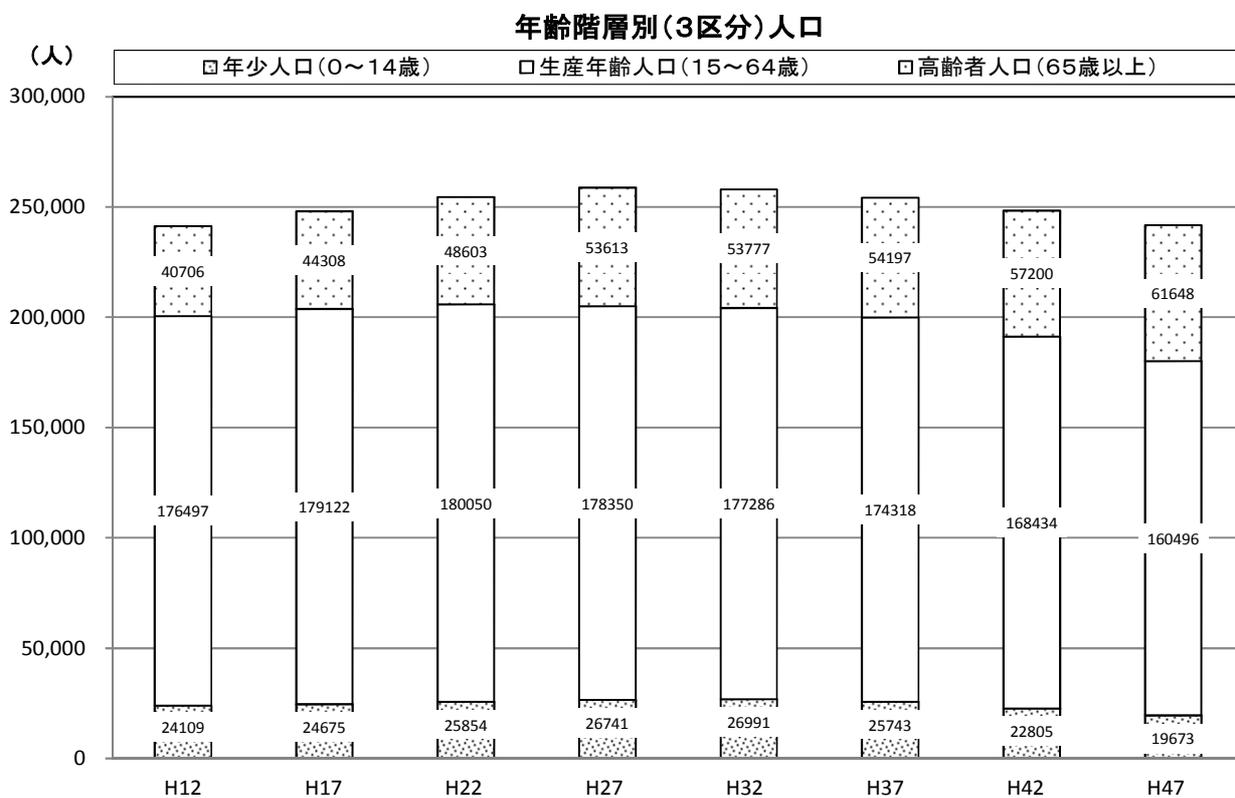
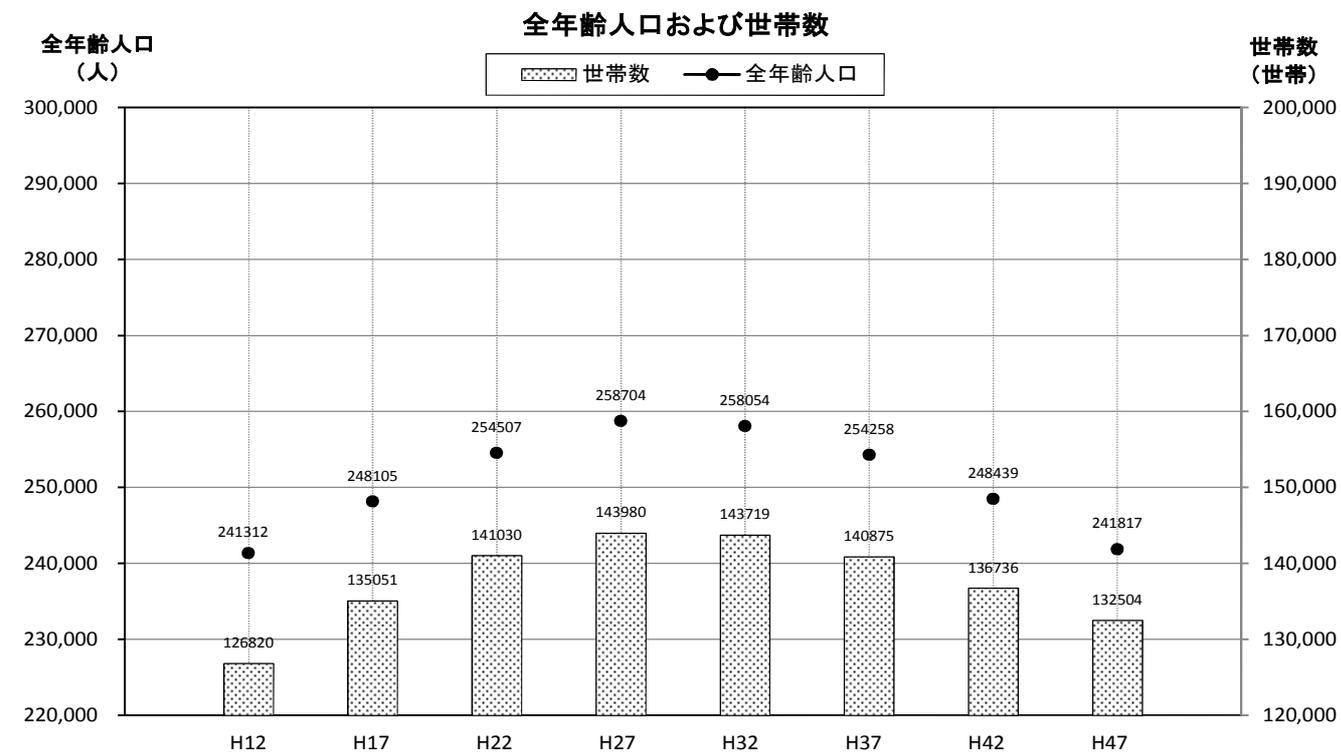
高齢者(65歳以上)及び75歳以上人口



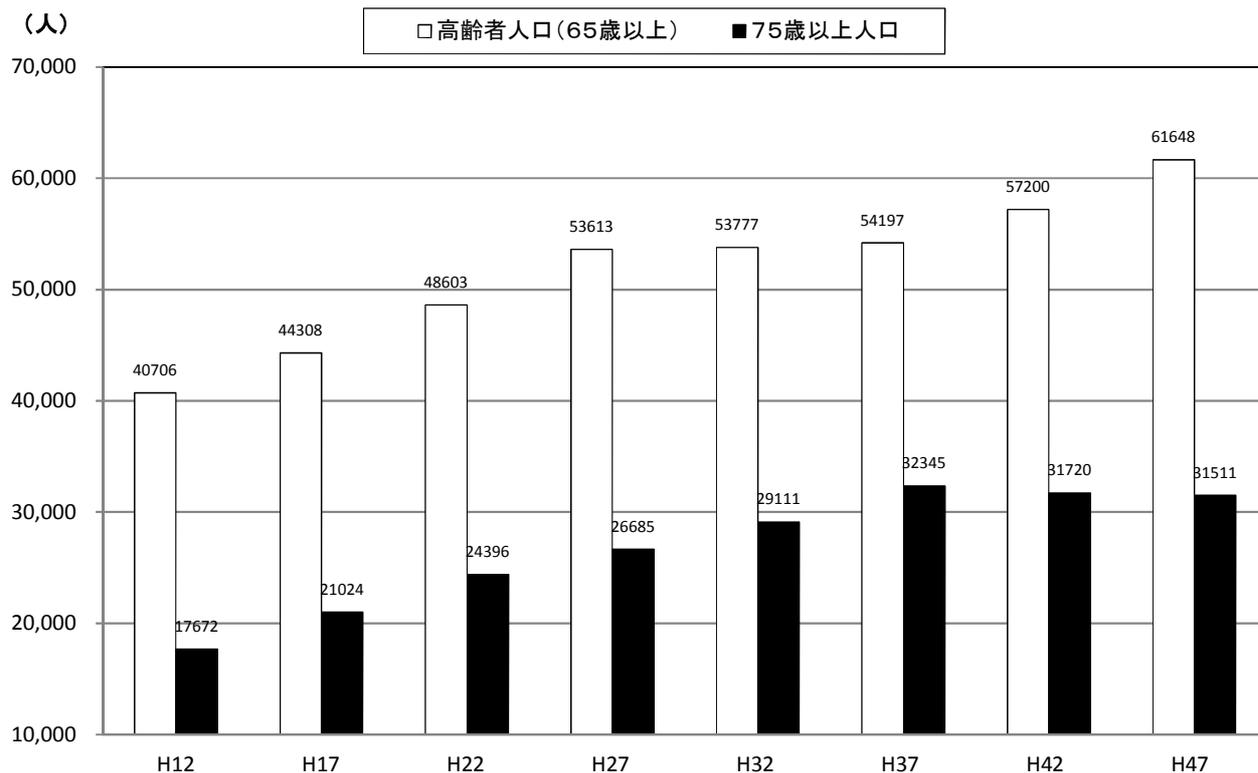
年齢階層別(5区分)人口比率



2. 住民基本台帳ベースの年齢階層区分別人口推移（全町丁）



高齢者(65歳以上)及び75歳以上人口



年齢階層別(5区分)人口比率

